

平成30年度 墨田区立第三吾孺小学校 学校経営計画・学校評価表(自己評価・学校関係者評価)

平成31年2月5日作成

学校教育目標	◎1 よく考える子ども 2 健康で明るい子ども 3 責任感の強い子ども 4 こころ豊かな子ども
○目指す学校像	「すべてはみんなの笑顔のために」三吾小に集う子ども、保護者・地域、そして教職員 すべての人々の笑顔あふれる学校
○目指す児童像	「学ぶ」ということを通して、「思いやり」の上に立つ「思考力・判断力・表現力」、「行動力」を身に付けようとする子ども そのために、主体的(proactive)に生きる子ども
○目指す教師像	①教育への情熱と使命感にあふれた教師 ②自らも学び、子どもとともに感動することのできる教師 ③社会人としての教養と品格のある教師

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	分析コメント	改善策	学校関係者評価 記入欄	評価		
児童の教育	【人権尊重、自主自立・自律の態度の育成】	自分で考え、行動できる力、自分の行動に責任をもつ態度を育成する	「三吾あいことば」を徹底し、自主自立・自律の生活態度を身に付けさせる	4 教ア「徹底して指導した」肯定的回答 85%以上 3 教ア「徹底して指導した」肯定的回答 70%以上 2 教ア「徹底して指導した」肯定的回答 60%以上 1 教ア「徹底して指導した」肯定的回答 60%未満	4	4 児ア「あいことばを意識して生活している」80%以上 3 児ア「あいことばを意識して生活している」70%以上 2 児ア「あいことばを意識して生活している」60%以上 1 児ア「あいことばを意識して生活している」60%未満	4	児童の評価では前期より肯定的評価が5.6ポイント上昇した。前年度の終わりにスタートした「三吾あいことば」が徐々に定着してきていると考えられる。	「三吾あいことば」は、自主自立・自律の生活態度を身に付けさせるための手段である。全ての教職員が、生活指導夕食等を通じて、児童にどのような行動を身に付けさせたいかということを通理理解し、日常の声かけを徹底することが、一番効果的な改善策となる。	・あいさつが返ってこない事がある ・教育の根幹であり行き届いている	B		
	【21世紀を生きるための確かな学力の向上】	主体的で対話的な学習活動を通して、生きて働く知識・技能の定着を図り、思考力・判断力・表現力等の資質・能力を育成する	ICT機器の活用を通して、理科・社会・生活の学力向上を図る	4 教ア「授業中ICT機器を効果的に活用できた」肯定的回答 80%以上 3 教ア「授業中ICT機器を効果的に活用できた」肯定的回答 70%以上 2 教ア「授業中ICT機器を効果的に活用できた」肯定的回答 60%以上 1 教ア「授業中ICT機器を効果的に活用できた」肯定的回答 60%未満	4	4 学力調査(理・社)の結果 標準スコア前年比+3ポイント 3 学力調査(理・社)の結果 標準スコア前年比+1ポイント 2 学力調査(理・社)の結果 標準スコア前年比±0ポイント 1 学力調査(理・社)の結果 標準スコア前年比マイナスポイント	(次)	正答率での比較では昨年と問題が違うので、単純な比較はできない。標準スコアと比較すると、H29年度→H30年度は、理科で若干のアップ、社会は同等である。今年度の成果指標は31年度の調査との比較(標準スコア)で評価する。	児童アンケートでは、「わかる」より「楽しい」が若干下回る。一方でICT機器の活用に関しては圧倒的に肯定的評価が高い。校内研究を通してICT機器を活用した授業展開を開発していきたい。	・楽しくなったということ、学力も上がるのでは	A		
	【健康、安全教育】	自己の健康に関心を持ち、自ら健康に生きようとする態度を養うと同時に、危機回避能力を身に付けさせる	自主自立・自律の態度で自らの生活を振り返り、自分の健康、安全を向上させる力を育成する	体力調査の結果分析に基づく授業改善・体育的行事の工夫を行い、運動能力・体力の向上を図る	4 全ての学級が、体力向上の取組を行った。 3 90%以上の学級が、体力向上の取組を行った。 2 80%以上の学級が、体力向上の取組を行った。 1 体力向上を行った学級が80%未満。	4	4 スポーツテストの結果 区平均以上項目 70%以上 3 スポーツテストの結果 区平均以上項目 60%以上 2 スポーツテストの結果 区平均以上項目 50%以上 1 スポーツテストの結果 区平均以上項目 50%未満	4	指標成果に対して、成果の指標が大きく上回っている。本校の日常的な取組が効果を発揮していると思われる。	自主登校後の朝遊び、25分休みの外遊びの奨励、マラソン週間や8の字チャレンジの取組など、次年度もその目的を意識して取り組む。31年度は、4月に体育部より今年度の結果・考察を提示し、重点とする取組を策定する。	・よい取組、これからが楽しみ ・多くの子供たちが朝元気に校庭で遊んでいる	A	
	【健康、安全教育】	自主自立・自律の態度で自らの生活を振り返り、自分の健康、安全を向上させる力を育成する	避難訓練、安全指導等を通して、災害や不審者に自ら対応できる危機回避能力を育成する	4 全ての学級が、適切な教材を使用し効果的な防災教育を実施 3 90%以上の学級が、適切な教材を使用し効果的な防災教育を実施 2 80%以上の学級が、適切な教材を使用し効果的な防災教育を実施 3 適切な教材を使用し効果的な防災教育を実施した学級が80%未満	4	4 予告なしの訓練で避難完了まで5分以内 3 予告なしの訓練で避難完了まで5分台 2 予告なしの訓練で避難完了まで6分台 1 予告なしの訓練で避難完了まで7分以上	3	避難訓練等が計画的に実施されており、児童の危機回避能力も順調に育成されている。	今後もさらにいろいろな場面を想定した避難訓練を計画していく。→今年度の計画のままではなく、2.3回分、設定を変えて計画する。	・不審者想定での訓練なども実施してほしい ・町会でも実施している	A		
地域、開かれた学校	【地域と協働した子育て、開かれた学校】	学校を積極的に開いて、地域と学び、地域から学ぶ教育を推進する	地域の教育財産を生かし、地域を知り、地域を愛し、誇りに思う児童を育成する	ボランティア、子ども会、いきいきスクール等と連携し、児童の参加を促し、地域の子育てと協働する	4 教ア「地域と連携、地域を活用した授業を実施した」教員が85%以上 3 教ア「地域と連携、地域を活用した授業を実施した」教員が80%以上 2 教ア「地域と連携、地域を活用した授業を実施した」教員が70%以上 1 教ア「地域と連携、地域を活用した授業を実施した」教員が70%未満	4	4 保ア「学校は地域との連携が図られている」肯定的回答 80%以上 3 保ア「学校は地域との連携が図られている」肯定的回答 70%以上 2 保ア「学校は地域との連携が図られている」肯定的回答 60%以上 1 保ア「学校は地域との連携が図られている」肯定的回答 60%未満	4	教員の80.2%が実施したと回答、保護者の90.9%は連携が図れていると回答している。積極的に地域を活用した授業が展開されている。	「自分の子供が参加している」が60.2%とやや低い値が出ていることから、地域の様々な行事に児童をもっと積極的に参加させるよう呼びかけをする。	・学校以外の行事にも関心をもってほしい ・これからの努力に期待	B	
	【健康、安全教育】	自己の健康に関心を持ち、自ら健康に生きようとする態度を養うと同時に、危機回避能力を身に付けさせる	自主自立・自律の態度で自らの生活を振り返り、自分の健康、安全を向上させる力を育成する	保護者・地域の協力を得て、10月にキャリア教育の特別授業を実施する	4 5名以上の地域人材によるキャリア教育授業を実施 3 3名以上の地域人材によるキャリア教育授業を実施 2 2名以上の地域人材によるキャリア教育授業を実施 1 キャリア教育授業を実施したが、地域人材は活用せず	4	4 児ア「将来の夢をもつことができた」80%以上 3 児ア「将来の夢をもつことができた」70%以上 2 児ア「将来の夢をもつことができた」60%以上 1 児ア「将来の夢をもつことができた」60%未満	4	今年度のキャリア教育の学習では、保護者を中心に9名の方が協力してくれた。児童が将来について考えるよい機会になっていた。	意義のある取組となったが、今年からの取組なので今後定着させるために、協力者の確保が今後の課題である。年度当初から保護者会などでの呼びかけを行う。	・とてもよい取組なのでこれからも継続してほしい	A	
	【健康、安全教育】	自己の健康に関心を持ち、自ら健康に生きようとする態度を養うと同時に、危機回避能力を身に付けさせる	自主自立・自律の態度で自らの生活を振り返り、自分の健康、安全を向上させる力を育成する	積極的に教育活動を公開、情報の発信を行い、保護者・地域の期待を深く受け止め教育活動を行う	HP、学校便り等充実や年13回の土曜学校公開を通して、積極的に教育活動の情報発信に努める	4 毎月の学校便りをHPにアップ、HP更新月20回以上 3 毎月の学校便りをHPにアップ、HP更新月15回以上 2 毎月の学校便りをHPにアップ、HP更新月10回以上 1 毎月の学校便りをHPにアップできない、HP更新月10回未満	4	4 保ア「学校の教育活動がよくわかる」肯定的回答90%以上 3 保ア「学校の教育活動がよくわかる」肯定的回答80%以上 2 保ア「学校の教育活動がよくわかる」肯定的回答70%以上 1 保ア「学校の教育活動がよくわかる」肯定的回答70%未満	3	保護者の87.9%が、「よく分かる」と回答している。また、英語訳を付けるなど、多くの人に伝える工夫がされている。	保護者会の参加率は低いのが課題である。保護者会の回数を減らし参加しやすい計画とする、全体会を無くし、学級保護者会のみにするなどの改善策が必要である。	・HPよく更新されている ・教職員の資質は全員の信頼を寄せている	A
教職員	【教職員の資質・能力の向上、働き方改革推進】	組織的に研究、研修を推進し、教員の指導力、資質・能力の向上を図る	研究推進委員会を中心にICT機器を活用した、理科・社会・生活の学力向上のための研究を推進する	4 OJTミニ研修の実施年10回以上、各学年の研究授業(含事前・事後)実施 3 OJTミニ研修の実施年8回以上、各学年の研究授業(含事前・事後)実施 2 OJTミニ研修の実施年5回以上、各学年の研究授業(含事前・事後)実施 1 OJTのミニ研修の実施5回未満、各学年の研究授業実施	4	4 児ア「理科・社会・生活科の学習が楽しい、よくわかる」80%以上 3 児ア「理科・社会・生活科の学習が楽しい、よくわかる」70%以上 2 児ア「理科・社会・生活科の学習が楽しい、よくわかる」60%以上 1 児ア「理科・社会・生活科の学習が楽しい、よくわかる」60%未満	4	英語を中心に、理科、社会、体育などのOJTを10回以上実施した。また、英語においては、毎月職員会議後に行うことになった。	楽しい、分るにおいて社会科の「楽しい」以外は90%を越している。社会の「楽しい」も87%と低くはないが更に改善が必要である。校内研究を通して社会科の教材研修や導入の方法などを改善していく。	・ICTの活用をさらに深めてほしい ・教職員は信頼できる	A		
	【健康、安全教育】	自己の健康に関心を持ち、自ら健康に生きようとする態度を養うと同時に、危機回避能力を身に付けさせる	自主自立・自律の態度で自らの生活を振り返り、自分の健康、安全を向上させる力を育成する	児童、保護者・地域、教職員へのアンケート調査を実施し、各種学力調査の結果を元に経営の改善を図る	4 各アンケートを実施、集計・分析し、2月までに改善案を作成 3 各アンケートを実施、集計・分析し、3月までに改善案を作成 2 各アンケートを実施、集計したが、分析が不十分 1 各アンケート未実施、もしくは集計、分析が未実施	4	4 保ア回収率80%以上かつ満足度90%以上 3 保ア回収率80%以上かつ満足度80%以上 2 保ア回収率80%以上かつ満足度70%以上 1 保ア回収率80%未満、または満足度70%未満	3	学校評価の回収率は85%ととても高い結果になった。また、組織的な集計、分析ができた。	今年度から学校評価の形式も変わったこともあり、より分かりやすく、効率的な方法を改善していく。今後も教職員が仕事を分担して準備・分析を進め、学校経営に積極的に関わる教職員を育成する。	・大変でしょうが、先生の喜びは子供たちに通じている ・開かれた学校だと感じる	A	
	【健康、安全教育】	自己の健康に関心を持ち、自ら健康に生きようとする態度を養うと同時に、危機回避能力を身に付けさせる	自主自立・自律の態度で自らの生活を振り返り、自分の健康、安全を向上させる力を育成する	教職員の働き方改革を推進し、教職員の身体的・精神的な健康を守る。	校務の見直しを進め、職員の週あたり在勤時間が60時間以内に収めることを徹底する	4 週1回の早め退勤の推進、毎週の出勤時刻の記録と報告 3 月2回の早め退勤の推進、月ごとの出勤時刻の記録と報告 2 月1回の早め退勤の推進、2月ごとの出勤時刻の記録と報告 1 早め退勤の推進ができない、出勤時刻のまとめができない	3	4 教職員の週あたりの勤務時間が平均60時間以内 3 教職員の週あたりの勤務時間が平均65時間以内 2 教職員の週あたりの勤務時間が平均70時間以内 1 教職員の週あたりの勤務時間が平均70時間以上	4	毎日勤務時間を記録した。早く帰れる日にシールを貼るなどの工夫もした。勤務時間は83%が60時間以内であった。	休みの日の出勤して仕事をせざるをえない事実もある。さらに会議や取組を大胆に精選していく。SSSを配置し、事務面での職務軽減を図る。	・知恵を絞ってください ・自分の会社と比較すると素晴らしい	A
	【健康、安全教育】	自己の健康に関心を持ち、自ら健康に生きようとする態度を養うと同時に、危機回避能力を身に付けさせる	自主自立・自律の態度で自らの生活を振り返り、自分の健康、安全を向上させる力を育成する	避難訓練、安全指導等を通して、災害や不審者に自ら対応できる危機回避能力を育成する	4 全ての学級が、適切な教材を使用し効果的な防災教育を実施 3 90%以上の学級が、適切な教材を使用し効果的な防災教育を実施 2 80%以上の学級が、適切な教材を使用し効果的な防災教育を実施 3 適切な教材を使用し効果的な防災教育を実施した学級が80%未満	4	4 予告なしの訓練で避難完了まで5分以内 3 予告なしの訓練で避難完了まで5分台 2 予告なしの訓練で避難完了まで6分台 1 予告なしの訓練で避難完了まで7分以上	3	避難訓練等が計画的に実施されており、児童の危機回避能力も順調に育成されている。	今後もさらにいろいろな場面を想定した避難訓練を計画していく。→今年度の計画のままではなく、2.3回分、設定を変えて計画する。	・不審者想定での訓練なども実施してほしい ・町会でも実施している	A	

教ア:教職員アンケートの分析

児ア:児童アンケートの分析 保ア:保護者アンケートの分析

※Aの評価者数 委員全体の70%以上→A 50~69%→B 50%未満→C